

登山月報



JMSCA

登山月報 第644号 令和4年11月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）



エベレスト南西壁からのローツェ

8月11日 みんなで山を考えよう!
祝「山の目」
全国「山の目」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

第77回国民体育大会	2
いちご一会とちぎ国体 スポーツクライミング競技会 報告	
ISMF 総会報告書	4
令和4年度安全登山指導者研修会(東部地区) 報告	7
2022 Gasherbrum VI 遠征隊 報告	9
Enjoy Climbing	11
佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員会のSDGsな活動	12
第19回山岳遭難事故調査報告書 その3	12
表紙のことば、編集後記	14

No.644

第77回国民体育大会 いちご一会とちぎ国体 スポーツライミング競技会 報告

本大会報告にあたり、全国で新型コロナウイルス感染症(以下「COVID-19」) 予防に従事されている医療関係者、感染予防を図りながらの都道府県予選会、ブロック大会運営にご支援ご協力いただきました、岳連/スポーツライミング連盟の皆様、素晴らしいパフォーマンスを発揮された選手、監督等に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて本大会は、42年前の第35回国体「栃の葉国体」から、国体正式競技となった2巡目の記念すべき大会です。関東平野の北部、下野干瓢発祥の地であり日光西街道の宿場町の歴史をもち、「おもちゃのまち」として発展著しい栃木県壬生町において、高円宮久子妃殿下のご臨席を仰ぎ、3年ぶり開催となった国体競技が10月2日(日)～10月4日(火)の3日間の競技日程で開催されました。

なお、ご臨席いただきました背後には、昨年中止となった国体会場地・三重県菟野町内の小学生が制作した歓迎の旗が、壬生町実行委員会のご配慮で掲示されました。国体の「絆」が引き継がれました。



総合開会式では、都道府県選手団の旗手の多くをスポーツライミング競技選手が務め、榑崎智亜(栃木県)が選手宣誓を行いました。

この度の大会は、COVID-19感染予防で、選手、監督、競技運営者を含む関係者への、2週間前からの健康チェックやPCR検査、抗原検査等の対応、競技エリアと観覧エリアの完全分離や入場制限50%での観覧者抽選などが徹底されました。ご協力いただきましたみなさまに、あらためてお礼を申し上げます。

競技においては、第78回国民スポーツ大会(佐賀県)から実施予定の、リード競技予選「一人2ルート」のIFルール準拠化として、成年男子を除く3種別において実施いたしました。競技運営面では、壬生町実行委員会の協力を



を得て、「競技進行リザルトシステム」(仮称)を導入し、競技進行中におけるジャッジビデオでの確認・保存が容易となり、競技成績集

計等の円滑化を図ることができました。

競技会初日には、大野敬三J S P O国体委員長、室伏広治スポーツ庁長官による競技視察があり、丸誠一郎会長はじめ、野口啓代J M S C A国体委員会オフィシャルアドバイザー、安井博志強化委員長等による、競技説明や直近に開催されたI F S CリードWorld Cup最終戦ジャカルタ大会報告等を行いました。なお、室伏長官は競技エリアにある、アイソレーション・ゾーンやウォール構造等を身近で視察されました。



47都道府県から3年ぶりに出場した選手は、安井強化委員長に、「日本人による、World Cup番外編だ」と言わしめるほどのレベルの高い、競技会となりました。

今年も、男子11名 女子7名 合計18名の中学3年生が出場し、山形県、奈良県少年男子は中学生のみの出場、今後の活躍が非常に楽しみです。

<リード競技>

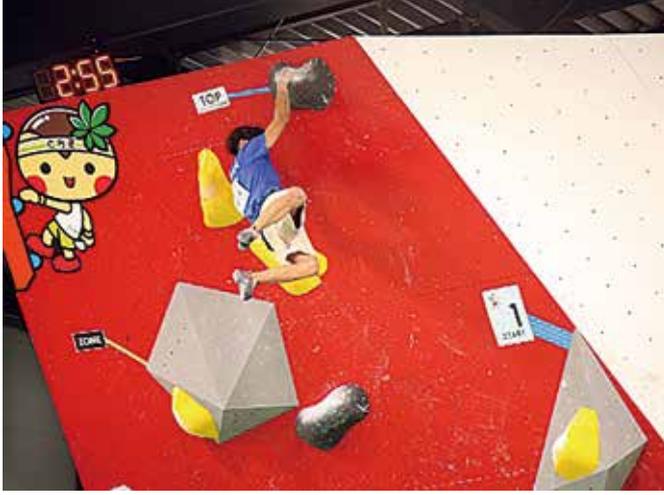
		少年男子	少年女子	成年男子	成年女子
茨城国体	予選	13b	12d/13a	13c/d	13a
	決勝	13a/b	13a	13c	13a
栃木国体	予選	13d	13b	13d	13b
	決勝	13d	13b/c	13d	13b/c

その少年男子リードでは、安楽宙斗(千葉県)が予選、決勝を通して完登し、ボルダリングにおいても予選、決勝ともに4完を果たし、他を寄せ付けない圧倒的な強さを見せました。1位は山口県、2位に東京都、3位は千葉県でチーム競技の難しさが表れました。

少年女子リードでは、小田菜摘(大阪府)が予選、決勝ともに完登し、小田穂香(個人順位2位、同)で、種目1位となりました。

予選では右ルート、竹内亜衣(千葉県)、左ルート、小池はな(埼玉県)、決勝で小池はなが完登しました。ボルダリング予選では、小池はな、竹内亜衣、永嶋美智華(静岡県)、が4完し、決勝でも、小池はな、永嶋美智華が一撃4完の実力を見せつけました。その結果、埼玉県が1位、静岡県が2位、3位には決勝で4完の篠崎由希の栃木県が入賞しました。

成年男子リード予選右ルートで、村下善乙(千葉県)、樋口純裕(佐賀県)、榑崎智亜(栃木県)、井上裕二(大阪府)、緒方良行(福岡県)の5名、左ルート、今泉結太(茨城県)、清水裕登(愛媛県)2名が完登しました。決勝では、千葉県、佐賀県チームの争いとなり僅差で千葉県が1位となりました。ボルダリング予選で、山口賢人、井上裕二(ともに大阪府)、清水裕登(愛媛県)が4完し、決勝では第4課題がポイントとなり、地元・栃木県を引き離れた大阪府が1位となりました。2位には鹿児島県、3位に栃木県が続きました。



<ボルダリング競技>

		少年男子	少年女子	成年男子	成年女子
茨城国体	予選	2級~2段	4級~1級	2段~3段	3級~1級
	決勝	1級~2段	3級~1級	初段	2級~初段
栃木国体	予選	1級~2段	2級~1段	1段~3段	2級~1段
	決勝	1級~2段	1級~1段	2段~3段	1級~2段

<ボルダリング競技課題>

		1課題目	2課題目	3課題目	4課題目
少年男子	予選	1級	2段	1級	1段
	決勝	1級	2段	2段	1段
少年女子	予選	1段	1段	1級	1段
	決勝	1級	1段	1級	1段
成年男子	予選	1段	2段	1段	3段
	決勝	2段	2段	3段	2段
成年女子	予選	2級	1段	1級	1段
	決勝	1級	1段	2段	1段

成年女子リードは、平野夏海(東京都)、久米乃ノ華((千葉県)森秋菜(茨城県)中川瑠(大阪府)の4名が予選2ルートともに完登しチームを決勝に導きました。その結果、決勝右ルート1位の森秋菜率いる茨城県が1位となりました。ボルダリング予選は、久米乃ノ華(千葉県)、大河内芹香(佐賀県)、森秋菜が一撃4完し、4完には平野夏海、菊池咲希(ともに東京都)、中島諒(長野県)が続きました。同予選において、負傷事故が発生いたしました。競技ルールを十分把握したうえでの対応が必要となりました。決勝は、予選で安定したチーム成績の東京都が1位、2位千葉県、3位佐賀県でした。

天皇杯順位		皇后杯順位	
順位	都道府県	順位	都道府県
1	千葉県	1	千葉県
2	東京都	2	埼玉県
3	栃木県		東京都
4	大阪府		茨城県
5	佐賀県	4	静岡県
6	茨城県		大阪府
7	三重県	7	福井県
8	埼玉県	8	佐賀県
8	山口県		

男女総合(天皇杯)、女子総合(皇后杯)では、5大会ぶりとなる千葉県が完全優勝されました。選手・監督の皆さん、おめでとうございます。

3年ぶりの国体開催、本大会から初めての試みである(成年男子を除く)3種別のリード競技予選「一人2ルート」は、大きな問題もなく競技進行が図られ、第78回大会(佐賀県)への大きな自信となりました。ボルダリング競技では、実行委員会協力のもとに、J S P O国体チャンネルを活用し、決勝の中継を行いました。解説には、平山ユージ国体委員会専門委員、実況MCは高杉“Jay”二郎を起用し、会場での観覧ができない多くの皆さんに、スポーツクライミングの楽しさを伝えることができました。会場地

少年男子リード競技決勝					少年男子ボルダリング競技決勝					
順位	県	ルート	氏名	高度	個人順位	順位	県	氏名	T Z	個人順位
1	山口県	右	村田昊輝	34+	2	1	東京都	小俣史温	3 4 5	
		左	石津元崇	32+	2			田宮瑛人	3 4 2	
2	東京都	右	田宮瑛人	38+	6	2	三重県	杉本侑翼	3 4 4	
		左	小俣史温	27+	1			小林準翔	1 3 12	
3	千葉県	右	安楽宙斗	TOP	1	3	佐賀県	通谷 律	3 4 3	
		左	瀧口絃生	21+	7			中村太河	1 2 14	
4	三重県	右	杉本侑翼	30+	3	4	千葉県	安楽宙斗	4 4 1	
		左	小林準翔	31	3			瀧口絃生	0 1 16	
5	兵庫県	右	松岡玲央	29+	4	5	栃木県	関口準太	2 4 6	
		左	藏敷慎人	31	3			寺川 陽	1 3 11	
6	栃木県	右	関口準太	29+	4	6	兵庫県	藏敷慎人	2 4 7	
		左	寺川 陽	27+	5			松岡玲央	1 3 10	
7	高知県	右	森川鉄平	4	8	7	茨城県	田中慧樹	2 3 9	
		左	和田樹怜	27+	5			佐藤悠織	1 2 13	
8	静岡県	右	鈴木音生	17+	7	8	山口県	石津元崇	0 1 15	
		左	鈴木大翔	17+	8			村田昊輝	2 3 8	

少年女子リード競技決勝					少年女子ボルダリング競技決勝					
順位	県	ルート	氏名	高度	個人順位	順位	県	氏名	T Z	個人順位
1	大阪府	右	小田穂香	42+	2	1	埼玉県	小池はな	4 4 1	
		左	小田菜摘	TOP	1			大澤萼花	3 4 5	
2	埼玉県	右	小池はな	TOP	1	2	静岡県	永嶋知華	4 4 2	
		左	大澤萼花	38	4			鈴木結菜	3 4 7	
3	静岡県	右	鈴木結菜	25+	5	3	栃木県	葛生真白	3 3 8	
		左	永嶋知華	42+	2			篠崎由希	4 4 3	
4	山口県	右	吉田清華	42+	2	4	奈良県	坂井美緒	2 4 9	
		左	妻嶋心路	32+	5			藤村侃奈	3 4 6	
5	千葉県	右	鈴木可菜美	22+	8	5	大阪府	小田穂香	2 4 10	
		左	竹内亜衣	42+	2			小田菜摘	2 3 11	
6	奈良県	右	藤村侃奈	32+	4	6	福井県	木津紅葉	2 3 12	
		左	坂井美緒	32+	5			齋藤小夏	2 2 13	
7	栃木県	右	葛生真白	23	7	7	千葉県	竹内亜衣	3 4 4	
		左	篠崎由希	32+	5			鈴木可菜美	0 2 16	
8	北海道	右	吉田ゆな	25	6	8	山口県	吉田清華	1 2 14	
		左	上原音羽	20	8			妻嶋心路	1 2 15	

成年男子リード競技決勝					成年男子ボルダリング競技決勝					
順位	県	ルート	氏名	高度	個人順位	順位	県	氏名	T Z	個人順位
1	千葉県	右	島谷尚季	33	3	1	大阪府	山口賢人	3 3 3	
		左	村下善之	38+	1			井上祐二	3 4 1	
2	佐賀県	右	樋口純裕	38+	1	2	鹿児島県	土肥圭太	3 3 5	
		左	中上太斗	34	2			川畑イサム	3 4 2	
3	鳥取県	右	河上絳輝	31+	2	3	栃木県	榑崎智亜	3 3 4	
		左	高田知堯	34	4			榑崎明智	2 3 6	
4	栃木県	右	榑崎智亜	35	2	4	神奈川県	小西 桂	2 3 9	
		左	榑崎明智	15	8			番匠大樹	1 3 12	
5	大阪府	右	山口賢人	26+	7	5	鳥取県	高田知堯	2 3 7	
		左	井上祐二	34	2			河上絳輝	1 2 13	
6	東京都	右	鷹見真洋	31+	4	6	茨城県	今泉結太	2 3 10	
		左	北江優弥	30	6			大金瑞生	1 2 14	
7	茨城県	右	大金瑞生	22	2	7	愛知県	佐野大輝	2 3 8	
		左	今泉結太	34	8			小宮山敦士	0 2 16	
8	鹿児島県	右	土肥圭太	30+	6	8	三重県	渡部佳太	2 2 11	
		左	川畑イサム	25	7			田嶋瑞希	0 2 15	

成年女子リード競技決勝					成年女子ボルダリング競技決勝					
順位	県	ルート	氏名	高度	個人順位	順位	県	氏名	T Z	個人順位
1	茨城県	右	森 秋彩	43+	1	1	東京都	平野夏海	2 4 7	
		左	菊池野音	13+	6			菊池咲希	2 4 5	
2	東京都	右	菊池咲希	30+	4	2	千葉県	二宮 凜	1 3 8	
		左	平野夏海	29+	4			久米乃ノ華	3 4 3	
3	千葉県	右	久米乃ノ華	39+	2	3	佐賀県	大河内芹香	3 4 1	
		左	二宮 凜	25+	4			樋口結花	1 1 12	
4	三重県	右	田嶋あいか	29+	5	4	茨城県	森 秋彩	3 4 2	
		左	義村 萌	29+	1			菊池野音	0 1 14	
5	福井県	右	廣重幸紀	34+	3	5	福井県	廣重幸紀	2 4 4	
		左	野村 遥	24	5			野村 遥	0 2 13	
6	佐賀県	右	大河内芹香	29+	5	6	長野県	三森里子	0 0 16	
		左	樋口結花	26+	3			中嶋 諒	2 4 6	
7	長野県	右	中嶋 諒	25	7	7	長崎県	原田朝美	1 1 11	
		左	三森里子	5+	7			木下 茜	1 2 9	
8	大阪府	右	中川 瑠			8	三重県	義村 萌	0 1 15	
		左	小山芹菜					田嶋あいか	1 2 10	

のみなさまに感謝申し上げます。

一方、会場地はもとより都道府県予選会、ブロック大会において、課題も多々浮き彫りになりました。

「参加資格にかかる選手登録」、「ブロック大会における総合成績」「ユニフォーム規定」などが上げられます。鋭意、解決を図りたいと思います。なお、競技会場に掲揚される47都道府県岳連／スポーツライミング連盟旗が、30余旗であったことは非常に残念でした。主管された栃木県や国体競技へのリスペクトの欠如であり、当該PFの猛省を求めます。

茨城国体に続き、国体、国民スポーツ大会後催岳連／スポーツライミング協会10県が一堂に会し、開催に向けた準備状況や抱える課題について情報交換を図りました。

リハーサル大会、役員編成、競技施設整備などが話題となりました。競技と競技との間の短い時間でしたが、対面式会議の有用性があらためて感じた貴重な交換会でした。引き続き、情報交換を継続することが確認されました。JMSCAからは、古賀英年副会長、安井博志強化委員長、西原国体委員長が参加いたしました。

来年の鹿児島特別国体からは、JSPOは参加資格に選手登録と同様に「アンチ・ドーピング研修受講」義務が課せられます。また、監督はもとより帯同するトレーナー等も同じように「受講義務」が課せられ、大会期間中は、受講証明書を携帯しなければなりません。受付において、確認をする場合があり「未受講」の場合、競技への参加はでき

なくなるので、ご注意ください。

最後になりましたが、普段の国体運営準備では大会視察を通じて運営マニュアルの検証が行われるわけですが、COVID-19感染症の影響(大会延期、中止)で文字だけの運営イメージには、困難があったことは想像されます。

弊委員会をそのことを踏まえて、岳連／スポーツライミング協会に寄り添えるよう努力を図りたいと思います。

好天に恵まれた、素晴らしい大会でした。競技施設整備をはじめ大会運営にご尽力いただきました、壬生町実行委員会、アナウンス、会場管理などを担っていただきました競技補助員の高校生、おもてなし等などの競技会補助員のみなさまに重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。(国体委員長 西原斗司男)



ISMF総会報告書

松澤幸靖

下記の日程で山岳スキー委員会委員長笹生と委員松澤の2名がスペイン・オビエド市で開催のISMFの総会に行き参りましたので報告します。今回の総会はコロナパンデミックのあとの3年ぶりの対面開催となり、しかもスペイン北部の比較的アクセスのよくない都市での開催で参加国が少なかった。特にアジアからは、日本以外はタイだけで、韓国と中国の参加がなかった。タイ代表はスイス在住で、実質日本だけがアジアからの参加であった。

■日程：10月14・15日

■場所：スペイン オビエド市にて

■参加国：41か国中22か国が出席(以下)

アンドラ・ブラジル・カナダ・チェコ・フランス・ドイツ・ギリシャ・アイルランド・イタリア・日本・メキシコ・ポルトガル・ロシア・スロバキア・スペイン・スウェーデン・スイス・タイ・トルコ・イギリス・アメリカ・ポーランド ※委任状は8か国

開幕に先立ってIOCバツハ会長からのビデオメッセージが流された。会長のメッセージは「SKIMOの2026参加を歓迎する。より『高く、速く、強く』新しい歴史を一緒に作って行きましょう!」との趣旨であった。IOC会長のメッセージは今回が初めてで、オリンピック競技になったことが実感できた。



【以下報告】

■メディア&報道に関して

EBU (European Broadcasting Union) と提携が報告された。5年前からの契約先から変わり、今季よりEBUと提携し、ISMFのW-cupや世界選手権など中心に、ハイライト・トピックスビデオなど提供する。EBUはヨーロッパ全域をカバーする放送局連合体で、これまで以上のテレビ露出が期待できる。今シーズンはオーストリアシュラドミングの大会中継などに力入れる。ノルウェーの

WC大会も中継予定。2026 MILANOにむけ重要なステップであり、今までよりも予算的にはかかるが良いイメージを与えるに重要と考える。2021-22は、雪不足に悩まされたが、全てのWCを実施でき、発信できたことは良かった。以上のようなISMFからの説明の後、WEBを通じてEBU担当者による説明があった。

■EBUでの放映に向け番組制作をつとめるユーロビジョンスポーツとの契約について

ファーストサイクル21-22&22-23、セカンドサイクル23-24&24-25。製作費は50対50(ユーロビジョンSPとISMF)となる。

■ウクライナとベラルーシの戦況に関するIOCの見解について (IOC Position regarding war situation in Ukraine & Belarus)

IOCは今シーズンのロシアとベラルーシ選手の参加を認めないとしており、15日の総会でも賛否をとった結果、賛成多数により、2国の選手の出場を認めないこととなった。ロシア代表はこの投票に先立ち以下のような発言をして、唯一の反対投票をした。

『まだ始まったばかりのスポーツであり、若い選手の芽を潰さないように2国からも出場できるよう働きかけるべき』 ※ロシアの代表によると、ロシアでは徴兵に呼ばれたSKIMO選手もいるとのことでヨーロッパで起こっている戦争の影を感じさせた。またISMFはロシア代表の総会参加についてスペイン政府と折衝しなんとか実現させたとのことであった。世界情勢にかんがみスポーツ大会への参加は拒否しても、国代表に発言の場を与えるのは一案といえる。ただロシア代表にはこの機会に国の正当性を訴えなければという姿勢もうかがえた。

■2026ミラノコルティナのスプリントと混合リレーに関するIOCの決定について (IOC decision regarding sprint and Mixed relay in Milano-cortina2026 programe)

最終的に36人(18・18)2種目となった経緯について説明があった。

セレクションは25年大陸枠等はIOCとの調整で決まるのでまだ先との事(2023年9月までに決定の予定)選手数48人5メダルとなるよう努力したが、2026のイタリアボルミオでの会場は、アルペン種目と日程が近く、当初の5種目の希望から大幅に減り、最終的には男女スプリントと混合リレーの3種目となった。SKIMOはオリンピック開催期間の最終週で開催される。ボルミオコース下部にて。予選の方法について(回数・人数)についてはまだ決定しておらず、今後決まり次第NFに連絡するが、2023年6月あたりに決定されると思われる。

ミックスリレーは基本的に36人の選手の中で組めることが前提で現段階では考えているが、出場できない国が多い場合も考えられるので、予選の考え方を考えることも今後はありうる。混合リレーはレギュレーションにあるようにスプリントに出た選手男女1名ずつの2名で2回の登りと下りのあるコースを使用する。

山岳スキーは、2026だけで競技実施が終わる可能性も

あり2030での実施は非常に重要となるとの発言が担当理事からあった。

■各国連盟とオリンピック委員会との関係について

各国よりそれぞれ簡単に説明があった。その中でドイツ・スペインなど、一つのNFで日本のようにクライミングとスキーの両方を抱え、その中で予算の確保や選手の発掘や獲得などについて苦労しているような話も聞かれた。イタリア、ポルトガル、アメリカなど、スキーあるいは冬季スポーツとしての括りの中で専門に近い活動ができていてNFもあり今後の各国の動きにも注視していく必要性を感じた。また、ISMFとFISとの関係について、ISMFメイヤ会長とFIS会長、副会長とは北京で打ち合わせをしており、現在FISは冬のオリンピックスポーツについては8組織との調整を行なっている状態であり、今後についてはISMFとも協力的な関係を維持していくと確認をしているとの報告があった。ただ議場の外で聞いた話ではFIS幹部の中にはSKIMOの参加にやや冷ややかな態度をとる者もいるとのことであった。

札幌については笹生より、札幌の招致委員会とは連絡をとっており、競技の適地も札幌周辺に存在することを報告した。バンクーバーはウィスラーが会場に想定されるがSKIMO大会に関しては今のところ積極的ではないとのこと。ソルトレイク周辺はSKIMO大会の実績もあり、開催できると報告があった。

■2030開催地について

2030の開催地は2023年5月~6月にムンバイでのIOC会議で決定されるであろう。

当初はアメリカがISMF総会でプレゼン予定であったがIOCからの注意喚起もあり実施されなかったよりなかった。いずれにしても、オリンピック種目として定着する為に2030は重要である、また各国に対してISMFはSKIMOの大会開催を働きかけているとのこと。笹生から、非公式に担当理事の札幌視察に興味があるか聞いたところ大いに関心を示していた。

■ヨーロッパ youth European cupについて

U16、U18、U20ヨーロッパカップについてヨーロッパ以外からの参加も可能にする現在Youth World cupとする方向で検討中であり、参加資格についてより明確にするような意見もあった。

日程：2月11-12(イタリア)、3月18-19(スイス)、3月23-26(フランス)

■20-21年次報告の承認、決算報告について承認、予算について承認、理事会についての承認(副会長解任から会長へ)、アスリート委員会についての承認

■現会長のRegula Meier レグラ・メイヤの立候補(実質的信認投票)に対する投票があり満票で承認された。レグラ・メイヤ会長は前会長の急な辞任に伴い暫定的に副会長から会長代行となっていたが、今総会で正式に会長に選任された。満票はこれまでの彼女の献身的な活動と運営方針が支持されたことの表れである。

■コンチネンタルチャンピオンシップに関して

「大陸カップに関しては他の大陸からの選手の参加は

できない」はU Sから異議あり、次年度に持ち越し。これはヨーロッパに在住する米国人選手等へ救済措置の面もある。近年アメリカではSKINOに参加する選手が増えヨーロッパの大会にも多く選手が参戦するようになっていて、世界選手権には大代表団が参加している。

■ISMFユースカップはISMF YOUTH WORLD CUPに名前を変更。これも他地域からの参加者を受け入れる措置として提案された。

■トランスジェンダーの参加資格問題について：タスクフォースを作って対応する事で一致。

■インド・アゼルバイジャン・オーストラリア・コロンビアの4か国が新たにフルメンバーとしての加盟が認められた。ネパールは賛助会員国の延期(規定は4年間)を承認。ウクライナの賛助会員国としての参加を承認された。

■ヨーロッパカOUNシルの設置(アメリカ大陸・アジア大陸はすでにある)について
設立の方向で承認された。

■メイヤ氏が会長になって空席となった財務担当副会長にU SのJames Mooreジム・ムーアが満票で承認され、それに伴い空席となった理事(Councilメンバー)にジョセリン(フランス)が承認された。

■2023年ISMF総会場所について(10月13.14日)パリにて開催決定

2024年総会の会場としてメキシコ代表からメキシコのリゾート、カンクンでの開催が提案された。これから正式な申請を経て決定される。

【その他】

■11月にフランスで例年行っているというスペインチームの合宿に日本チームの2名の選手が参加させてもらうことになった件について今年の総会がスペインの開催であった為、カナルス理事長ほか、ジュニアコーチのジョルディ氏からも合宿について事前に情報を得ることができたのはありがたかった。

■その他：(中国チームについての情報)

ISMF幹部の話によると、中国チームはイタリア人コーチOscar Angeroniと4年の契約をし、今シーズン前にイタリアに強化拠点をとする施設を購入し、20名の選手を11月から4月までの6ヶ月間×4年で、そこを拠点にして選手強化及びWcup/世界選手権などに参戦するという。韓国についてはヨーロッパでの選手強化について特に情報は得られなかった。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

※以下は総会後にISMFより届いたIOCからの全競技に関わる出場選手選考ガイドラインについての覚書の内容となりますが、重要な部分だと思いますのでポイントとなりそうな部分を添付いたします。追ってIOCから公式の日本語訳版がでると思います。

Olympic Winter Games Milano Cortina 2026, Qualification System Principles オリンピック選手選考の規定に関して

1. 選手選考

選考規定は公正、透明、かつ各大陸ができるだけ代表さ



れるプロセスに基づき、最も優秀なアスリートが大会(オリンピック)に参加できるように努めなければならない。Qualification Systems must allow for the participation of the best athletes through a fair and transparent process concerned to maximize the opportunity for continental representation at the Games

2. 選考イベント(レース、大会)

- ・1レース以上の参加機会が与えられるべき
- ・選手などに過度の移動、旅費負担がかかるような選考イベントは避けるべき
- ・上記のような過度な負担が避けられるのであれば、大陸ごとの大会も選考大会として設定できる
- ・選考規定大会、どの大会が選考対象になるのかは、開催地がその時点で決まっていなくても、選考期間開始までに告知されなければいけない

3. 選考期間

オリンピックエントリー締め切りの最大で18か月前、2シーズン前まで。国際連盟からの要請があれば、IOCが選考期間の変更を許可できる。

選考期間は2026年1月18日まで。

4. クォータ(割り当て)制度

- ・IOCからの割り当てに準ずるべき(これが18枠の由来?)

5. 大会エントリー

- ・エントリー(選手名登録)締め切り：2026年1月26日

6. 割り当てに関して

- ・各競技は選手枠の割り当てが選手個人に与えられるのか、ナショナルコミティーNOCに割り当てられるのか決めなければならない
- ・NOC(国ごと)に選手枠割り当てられるのであれば、NOCごとに選定基準を決められる権利を与えるのか、又は「最低基準」を設けるのか決めなければいけない
- ・必要であれば、国際連盟は選手の技術・成績基準がオリンピック参加にあたり相当(安全)であるか確認するべき

7. NOCの役割

- ・NOCは代表選手の選定の最終権限を持つ。選手枠の割り当てを受け入れる(認定する)または拒否することができる

11. 最低基準

最低基準を設けるのであれば、国際連盟は最低基準をどの大会で決めるのか定めること。

令和4年度安全登山指導者研修会(東部地区)報告

10月21日(金)～23日(日)の3日間、東部地区の令和4年度安全登山指導者研修会を茨城県北部の犬子町で開催致しました。宿泊は犬子町営研修センター、実技研修の登山コースは名瀑として有名な袋田の滝に近い、月居山周辺とし、東日本の10都県から研修生26名(男性18名、女性8名、30歳代から70歳代まで)を迎えました。

コロナ禍が心配されましたが、第七波が落ち着いて、withコロナの状況になり、マスクなどの感染防止に注意を払いつつ、日常に近い行動となって来たので、情報交換会を含めて予定通りに開催することが出来ました。

登山コースに選定した月居山は袋田の滝から南側に連なる山系の、滝から最初のピークで標高は404m、古くから林業や信仰で歩かれている山域で、廃道に近い古い林道や、この数年の間に開発されたロングトレイルのルートがあり、距離は短い急傾斜の道や露岩の通過、崖の脇を通る登山道、など変化に富んだコース取りが出来て、更に樹林帯が多く、遠望が利かない、など読図練習には最適な山域である。

●初日：10月21日(金) 開講式～講義Ⅰ～Ⅴ

9時、県内の運営スタッフが集合し、会場設営、準備を開始、10時過ぎには国立登山研修所から米山所長他計4名、日本山岳・スポーツライミング協会(以下JMSCA)から小野寺専務理事が到着し開催関係者で11時からミーティングを開く。当日急遽1名が発熱で不参加の連絡が入る。

12時から受付、12時30分から開講式を行い、国立登山研修所米山所長、JMSCA小野寺専務理事、茨城県山岳連盟西内会長の挨拶の後、開催地である犬子町の商工観光課長 田那辺様からご挨拶を頂きました。

マイカー参加が8割となった中で、マイカー組数名が開講式の開始に間に合わなかったが、13時からの講義には間に合い、予定通り研修を開始しました。

■講義Ⅰ 「登山のプランニング」北村憲彦講師

安全登山に資する登山計画書の意義と重要性について



北村講師



研修生



開講式



米山所長挨拶

で：登山を計画する事はリスクに対して準備する事：リスクを減らす事で命を守る行動が必要である。

■講義Ⅱ

「PDCAを活用した安全登山の指導」北村憲彦講師

P：登山計画書を作って、D：山行を実施し、C：帰着後には反省、チェックを行い、A：次の山行に活かす、という活動を続け、連れて行ってもらうのではなく自立した登山者となり、自分の命を守り、チームの安全を守れるチームになる事が大切。チーム内での計画書の情報を共有する事、計画書の精度(スケジュールだけでなく、リスク対応策の検討を含む)が安全登山に大きく貢献する。

■講義Ⅲ

「読図とナビゲーション」(初級・中級編)河合芳尚講師

何故道迷いが起きるのか、過去の事例から要因を10パターンに分類して紹介。道迷いを起こさない為の行動パターン、地図の読み方、活用方法、地形と地図の表現、方位磁石(コンパス)の使い方、計画書への反映の仕方、などの技術的な内容に加え、何故道に迷ってもそのまま突き進んで大事に至るのか、心理面から分析し、装備や行動を考慮してみて、装備不足、行動(行き先)の根拠が無い、計画書を出してない、沢へ下る道、は引き返すべきターニングポイントである事を解説頂いた。

— 30分の夕食休憩を挟んで、講義再開 —

■講義Ⅳ 「ルートプランニングの指導」河合芳尚講師

地図から登山ルートを読み取って計画すること、計画の通りに行動する(出来る)事を目的に、地図の表記と地形の関連性、地図で注意すべき地点と特徴物の



河合講師



研修生 窓はもう暗い



和田幾久郎講師

抽出、計画書でどう活用するか、等を講義して頂いた。

道迷いしない為に大切な事は：1番 体力、2番 冷静さ、3番 技術。

引き返す勇気ではなく、引き返す計画。

先輩の教え 困難は克服し、危険は回避する。

■講義V

「茨城県北ロングトレイルの取組み」和田幾久郎講師

地元、水戸市他で登山用品を主に扱うスポーツショップを経営する和田講師による、茨城県北部の里山地域に開発・開拓途上の1周約320kmの里山と山里を繋ぐトレイルコースについて、全体の計画とコース開発に掛ける熱意を講義して頂いた。スタート、ゴールの無い環状コースで自由にコースを選定して登る(歩く)コースを構築中。整備活動はボランティアで行っていて、約600名が登録している。観光の新しい形、トレイル文化圏を構築していきたい。

●2日目：10月22日(土) 実技研修I、II

実技研修で登山コースを歩く日である。

■実技研修I 「コンパスの使い方」河合芳尚講師

実際に体を動かしてコンパスの使い方を練習する。事前に使用許可を得ておいた、隣接する大子町役場の駐車場に集合する。朝早いのと、土曜日なので、空いている。

コンパス(磁北)を頼りに方角を決めて三角形、四角形を描いて出発点に戻る練習をする。コンパス1-2-3(コンパス ワン・ツー・スリー)と呼ばれる練習で、方位コンパスの実力を再確認する。

■実技研修II

「ナビゲーションの実践」

河合芳尚講師、北村憲彦講師、及び茨城県山岳連盟山岳コーチ8名が指導を担当した。他に、茨



コンパス 1-2-3



城県山岳連盟の加盟団体に所属する医師1名、国際山岳看護師1名、国立登山研修所関係者計4名、JMSCA関係者2名、茨城県山岳連盟から記録係1名が同行した。

登山(読図)の実技行動である。本部の4名を残してバスで登山口へ移動する。4班に分かれ、各班に茨城県山岳連盟の山岳コーチの有資格者が班長、副班長となり、事前に配布した約40個のチェックポイントを確認しながらコースを歩く。県内の実技講師はこの日の為に自信が得られるまで下見を繰り返したが、研修生はほぼ全員が歩いた事のないコースの筈なので、ポイントの確認に手間取る事が懸念されたが、読図技術に優れている様子と早い歩きで順調に歩を進め、予定より30分程早く下山する事が出来た。バスで朝のコンパス練習の駐車場に戻り、簡単に登山中の行動について振り返り、各班から報告の後、散会。北村講師は翌日の講義に備えて熱心に記録しておられた。

入浴の後、18時から情報交換会を兼ねた夕食会とする。コロナ禍で情報交換会については直前の判断で開催を決め、受付時に希望者を募ったところ、全員から賛同を頂き、開催となった。残留部隊が買い出したお酒とおつまみは、全て参加者のお腹に収まり、きれいに片付けて頂いた。

●3日目、最終日：10月23日(日)

研究討議、アンケート、閉講式

初めに「茨城の安全登山普及の取組み」と題して茨城県山岳連盟の指導委員長、中庭稔から岳連の登山の指導に関連する委員会組織と取組、活動について紹介させて頂いた。



出発前、記念撮影



中庭委員長



河合講師



グループ討議風景他

【研究討議】

■「コース図の作り方について」河合芳尚講師

安全登山の為には計画書、中でも読図即ち登山コースの情報入手と理解が重要であり、現代のコース図作りの手法を普及させる事も大切な事から、作業の手順、ノウハウを講義して頂いた。

カシミール3Dという無料で使える地図ソフトを使い、インターネット情報から地図をダウンロードし、PDFからJPEGに変換してExcelシートに貼り付け、Excelの通称「お絵描きソフト」でコースのラインやポイントの○を書き込む手法を使う。また、コース上で目標に出来る特徴ある地形を探す為にコースを進む際の等高線の変化を読み取るコツを伝授して頂いた。

■「安全登山指導者を目指して」北村憲彦講師

前日の実技研修コースの感想、危険箇所、その他、トピックを各班から発表した。

4班に分かれて、前日の成果を踏まえて、課題の地形図で登山ルート立案する課題演習を行った。登山口から山頂に至る登山ルートを決める。次に、ルートの①リスク箇所・地点、②想定されるダメージ、③若しも…が起きたら、を想定して、④リスク、ダメージを減らす対策を考える、という課題を班毎に検討し、結果を発表した。

北村講師から、重要な事はこれらの検討課題を参加メンバー全員が共有し、合意している事であり、安全登山に繋がる事を理解している事である、との解説があった。



修了証授与



米山所長挨拶

町田登山部長



アンケート

これで、研修の全課程が修了した。研修生に3日間の研修を振り返って頂き、アンケートに熱心に回答して頂いた。結果については別途、報告書に掲載します。

閉講式

11時30分から閉講式を行い、研修生には国立登山研修所米山所長から修了証が授与された。国立登山研修所米山所長、J M S C A町田登山部長、茨城県山岳連盟西内会長、福島県山岳連盟平子会長（次年度開催県代表）の挨拶があり、閉講式を終了した。

ご参加頂いた研修生の方々、研修会を計画された国立登山研修所、日本山岳・スポーツクライミング協会関係の皆様、開催に協力頂いた県内の山岳連盟関係者、及び開催地、太子町の関係者に厚く御礼申し上げます。

(茨城県山岳連盟 中沢隆一、記録写真 鈴木 幸)

2022 Gasherbrum VI 遠征隊 報告

報告者 種石英典

1. 概要

Gasherbrum VIは7004mの標高を持ちながらも2022年現在まだ登頂されていない山の一つである。

過去にドイツ隊やフランス隊等いくつかのパーティーがトライしているがピークには到達していない。

今回、我々のチームは南東壁に狙いを定めこの未踏の山に挑戦する。

Gasherbrum VI 7000mの初登頂、南東壁からのアルパインスタイルによる初登攀が目的。

■山域：Pakistan Gasherbrum 山群

■遠征予定期間：2022年6月17日～2022年8月15日

■メンバー：高柳傑(35)、種石英典(36)、鈴木雄大(28)

2. 行程

6月17日	日本出国、パキスタン着
6月18日～6月22日	Islamabadにて登山準備
6月23日～6月26日	skarduにて登山許可手続き、キャラバン準備

6月27日～7月3日 1週間かけてBaltro氷河キャラバン、Gasherbrum VIの麓にBC 5100m建設。Baltro氷河は有名なトレッキングコースであり、何も考えずに歩くのみ。(27日Jhula泊、28日Payu泊、29日Urdukas泊、30日Gore II泊、1日Concordia泊、2日同Concordia泊、3日Gasherbrum VI BC着)

7月4日～7月9日 東・西・南壁の偵察
7月10日～7月12日 高度順応6000m
7月13日～7月17日 休憩、装備を取りつきにデポ
7月18日～7月20日 Gasherbrum VI アタック6000mまで、敗退

7月21日～7月24日 バックキャラバン準備
7月25日～7月28日 バックキャラバン、Hushe着
7月29日～8月4日 Skarduにて帰国準備、Islamabad着
8月5日～8月7日 パキスタン出国、日本着

3. アタック経過と敗退理由

当初登攀を予定した南面は、数年前と様相は一変しておりとても登れる状況ではないと判断した。世界的だとは思いますが、近年の温暖化により、雪氷の減少は特筆に値する(特に南面)。各方面を偵察した結果、西面からの登攀を行うことにする。

アタック全日において天気は問題なし。よく晴れた。

高所順応は種石を除き(後述)、高柳、鈴木は6300mまで問題なく完了していた。行程はC1、C2、C3を経由してのTOPで4泊5日の計画を立てた。

BCから懸垂氷河を越え、5300mにC1を設置。ここまでロープ使用箇所はなく問題なし。

翌日、C1からC2(6200m)への実質的なクライミングスタート。ダブルアックスにて氷斜面を登る。

もう少しでC2だという6000m付近において高柳のアイゼンの前コバが壊れた為敗退を決定。

また、C2からの上部のミックス帯は見るからに脆そう+氷が無く、登れる気がせず再トライは行わないことになった。

4. 反省点

反省点は大きく4つあり、以下4点を記述する。

- ①遠征直前にメンバーが決定した為、メンバー3人で冬山に入ったことは皆無であり、また互いに初見のメンバーもいて意思統一/チームワークが全くなかった。時には命を懸ける場面もある遠征においてこの状況は好ましくない。気心の知れたメンバー、よく冬山と一緒に入っているメンバーでチームを組むべき、また一緒に山に入ってチームを作っていくことが重要である。(当然のことですが…)準備段階で、当たり前のことを当たり前にできていなかった。
- ②種石がキャラバン途中からBC滞在中、水にあたり、2週間にわたる深刻な下痢になり、行動不能・高所順応ができなかった。登山以前の体調管理ができていない残念な状態であった。お腹が弱いのであれば、消毒液や浄水器などを持参しパキスタンの環境に耐えうる準備をすべきである。もちろん、下痢薬や抗生物質も持参していたが、5000m以上の高所では回復するのにかなりの時間を要する。種石は山頂のアタックをせずにサポートに徹することを申し出たが、話し合いによりアタックすることになった。
- ③現地エージェントの準備が悪く、キャラバン・バックキャラバン準備、帰国準備に無駄な日にちをかけた。また、頼んでおいた食料や燃料がBCに届けられない、当初予定のBCまでポーターが荷物を運ばないなど、問題が多々発生。お金をケチらずに信頼できる大きなエージェントと契約すること、ポーターサーダーには最終BCまで付き添うことを徹底することで無駄な時間、労力、心労を減らしたい。ポーターのみでは言うことを聞かない。同時期に遠征した大手エージェントチームは、パキスタン入国翌日にはキャラバンを開始していたり、登山終了したら即バックキャラバンを開始していたり行動が迅速である。また食料・住環境もかなり潤沢である。

- ④アイゼンのパーツの予備はアタックに持っていきべきか? そんなことを言い出したらあれこれも持っていこうとなり、アルパインスタイルでは対応できなくなるので、これについて結論は出ていない…。ただ、アイゼンは最重要装備でもあり簡単なKITは持っていてもよいか。また、新品を持っていくことでもある程度対応策になると思う。

5. 会計

その他、各々航空券、街滞在時の食料、行動食、嗜好品は別途。

6. その他特記事項

- ・2022年からパキスタンのVisa申請はオンラインにて申請できるようになり分かりやすくなった。
- ・2022年は登山申請方法が変更になったことで、許可が降りるのに時間がかかった。
- ・コロナショック明けで登山者が殺到したことにより、パキスタン国内のガス缶が不足し、確保するのに苦労した。エージェントによると上記2点は来年には問題ないでしょうとのこと。
- ・世界的に物価は上昇しておりパキスタンも同様であるが、それでもまだ安いと思う。なお、2022年は記録的な円安であるが同時期のパキスタンルピーも安くなっており、その点は苦労しなかった。
- ・Islamabadで用意するものは何もなく、登山基地の町Skarduにて全て揃う。

登山用具、車輪代	20
イスラマブードカード付片道フライト、キャンセル料4人	20
ラフルピンチイック復原機代(EPガス充填済み)	20
イスラマブードカード付車輪	448
イスラマブードカード付宿泊(ベッドメイキングなし)	200
登山料ロイヤリティ	1,000
支払い手数料2件分銀行へ	0
旅行代理店の登山申請・手配一式	1,000
ヘリコプター便送付手配、車数料など	200
探検保護費など	600
L.O. ガイド、コック保険代	77
運搬機材の搬送	277
※ 旅費代	1,500
※ イスラマ、Gの滞在費日当	345
※ BC費車代、他	100
食料、コック、ガイド、ポーター、ジープ代運送各キャラバン費用	4,872
夜間電話費もし	285
通信カード	17
牧場料・茶、ビージャーキー	70
日し出し薬庫費(キツチン)	40
ブルシート、EPガス他	30
合計	12,819
出国時の1ドル=122円計算にて	1,704,827円



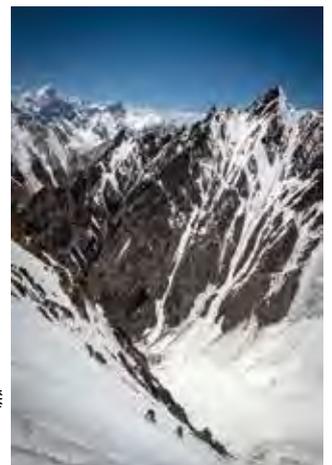
BCからGasherbrumVI南壁



BC全景。
他のテントはGasherbrumI IIのチームのもの



C1からGasherbrumVI西壁を背景に集合写真、登攀ラインは右上するガリー(陰になって見えない)



C1からC2への登攀

Enjoy Climbing

連載⑧

ヒマラヤの沢(4)

2022.3.31-4.16 Jumula~Mugu~Humla

ヒマラヤの沢の可能性を探る旅

佐藤裕介

4月10日 7:20 ビバーク地発 / 7:25 出合 / 10:30 -
11:55 2700m 小屋宿(道路工事事務所)

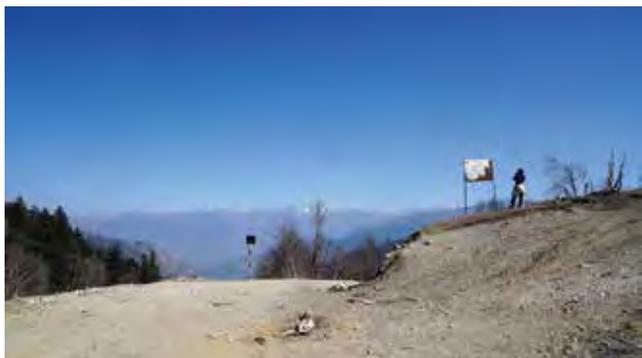
天候は回復し、今日はしっかり晴れた。岩崎さんは沢と別れハスタたちが待つ小屋(2日前の宿と同じ)へ向けて直接登り、佐藤は二股を越えて下降路として有力な沢の出合まで遡行。本当に下れるのか偵察することにした。

ビバーク地から5分程で右岸からの支流が出合う。直ぐに行く先がゴルジュっぽい雰囲気となり、出発前少し懸念していた地図の細い直線部分がしっかりゴルジュとなっていた。初っ端の滝は5m程と高差のない滝だが谷筋いっぱい水が落ちる滝で相当頑張らないと登れそうに無い。今日はもちろん巻き意外の選択肢はなく右岸から高巻く。獣トラバース道を使いながらゴルジュ帯2-300mを巻いていくが眼下に見える谷は素晴らしいゴルジュとなって10個ほどの小さな滝を持っている。どれも突破はかなりの厳しさに見えた。

ゴルジュを抜けると対岸(左岸)に滝が見えた。ほぼ垂直に水を落とす100m程の滝である。此の沢の下降は厳しいのかと思わされたがよく見ると滝の左にテラスがあり、ちょうど50m 2回の懸垂で降りられそうにも見えた。その上部の沢は問題なくやはり有力な下降路になりそうだ。

ビバーク地を出発する前には右岸の支流出合に戻りトレッキング道に登り返しかなと思っていたが、今巻いている最中の斜面に登りトレッキング道に出られそうだ。その斜面を1時間半の登りで見覚えのある青い小屋に到着。目的の小屋までは僅かだ。

小屋直前で歩いている岩崎さんと会い、予定通り10:30到着。



峠からフムラの山々を振り返る



上流へ向かう

お茶とダルバートを頂き、帰り路のスタート。3200mの小屋へ向けて出発した。

意外と時間かからず小屋(道路工事事務所)に着いて久々に頭を洗ったり洗濯する余裕ができた。

4月11日 6:00 事務所発 / 9:30 峠3,570m / 12:00 - 13:30 2700m 村(ここからジープ) / 14:50 温泉P / 15:30 - 16:30 温泉 / 17:00 ジープP / 17:50 ガムガディ

ハスタがコーヒーを作ってくれてそれを飲んで6時過ぎ出発。今日の工程は余裕なのでのんびりと歩く。前々日の小雨でだいぶ大気が澄んで峠から見る山々もスッキリと見ることができた。峠から30分程にあった家で茶とラーメンを頂きスタート地点となった村目指した。

ゆったりと下ってもお昼に村到着。

ジープでガムガディへ向かうが、途中の温泉に寄り道。30分程の歩きで立派な鉄分多めの温泉でマツタリ。最高の締めくくりとなった。

*

今回は自身初めてのまともなトレッキングと沢登りの偵察もしっかりすることができて最高の旅となった。諸事情で来年は海外遠征に行けないが、再来年再びこの沢を訪れて本流の出会いから沢を遡行してみたいと考えている。

しかし、西ネパールのこの地域はジープ道がかなり延びたとは言え中々遠く手間のかかる地域である。岩崎さんが昔トレッキングしていたことと比べ開発は進んでもまだ素朴な生活は維持されていて心休まる旅となった。

本格的な沢へのトライが今から楽しみです。

ヒマラヤの沢 — おわり



ムグ・カルナリナディの畔で温泉に浸かる

佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員会のSDGsな活動

本県岳連は、山岳会1団体、スポーツクライミング2団体、高体連と小所帯であります。令和6年に佐賀国民スポーツ大会を控え、その準備に時間を割いているところです。2年前に退会した山岳会の会長が自然保護委員長を務めていました。その後空位のままです。

ただ、自然保護活動としては、高校の県大会などが行われる山域の清掃登山や県主催の登山(ハイキング)行事が行われる山域の山道の整備は、令和2年までは細々ながら実施してきました。

例年6月の環境月間に合わせ、清掃登山を実施してきていましたが、令和3～4年度は、コロナ禍で実施を見送ったため、令和2年度に行った清掃登山の実施状況を報告いたします。

実施日は令和2年6月21日(日)、場所は佐賀・福岡県境の脊振山系の雷山(標高955m)で実施しました。

午前9時、雷山南登山口(佐賀市富士町神水川)に集合・出発。唐津山岳会、高体連所属2高校の登山部生徒、岳連役員等合計20名の参加者がありました。

佐賀県側から登る場合、一番よく利用されているルートで、道もはっきりしていましたが、途中の植林地内で杉の風倒木が3本あり、チェーンソーで伐採し処分しました。

その後、山頂を目指して登りましたが、ゴミ等は全く無く、何の問題もありませんでした。

10時40分、雷山の頂上に到着。薄曇りの空模様で、遠

望は霞んでいましたが、福岡県側からの登山者も数パーティーいました。

山頂で記念撮影をした後、昼食をしながら歓談。11時40分、解散し、各参加団体自由に下山しました。

清掃登山は、登山道や山頂周辺の清掃に限らず、ルート上の標識類や危険箇所の点検、整備、更には加盟団体会員同士の交流の場として、非常に有意義なものと思われます。

なお、この日はNHK佐賀放送局の方から同行取材があり、翌日月曜日朝の九州・沖縄のニュース番組で、倒木の伐採状況並びに宮原会長のインタビュー等の放映があり、清掃登山の広報、周知に大いに役立つことができました。

佐賀の場合、自然保護活動とまでは言えないかもしれませんが、現在出来ることを行いそのことを多くの県民に知ってもらおうようにしていこうと考えています。

(前佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟会長 多田 修)



風倒木の伐採状況



荒れた九州自然歩道

第19回
山岳遭難事故調査報告書

その3

山岳遭難事故データベースからの分析

新規登録229人の特徴

2022年6月現在、事故データは新しく、229人分が登録された結果、4436人となった。

- 日山協93人、労山136人

- 総データ数4436人
- EXCEL使用セル数(3,047,532data)
687fields × 4436records

1. 新規登録者の基礎情報

図18に登録者229名の事故者年齢分布を示す。図より明らかのように、図中に張り込んだ労山、JMSCA会員の年齢構成(図8)に類似した事故者分布パターンを見ることができる。この類似性は、会員である母集団から発生する事故発生割合が、特定の年齢層に偏らず、全年齢層で、ほぼ一様に発生していることを意味している。

事故者年齢分布パターンは、前年度と同様、女性の事故者数が男性を上回るが、その分布も登山団塊世代にかたまる傾向がある。また、今年度からは女性80歳以上に事故者が見られなくなった。今回限りの現象なのか、注目される。

表4の世代別障害程度は、前年度同様、死亡者数は小さく抑えられ、男女別では半々の比率となっている。その原因は、沢登りでの潮水吸引による窒息死、悪天候からくる低

体温症、心筋梗塞、蜂に刺され心臓突然死であった。IIC = 4 重体の方は大半がクライミング系の事故であった。

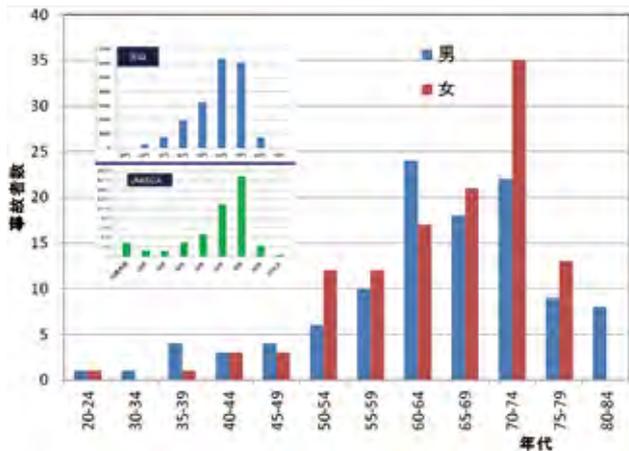


図18 性別事故者年齢分布

表4 新規登録者の世代別障害程度

年代	IIG Injury and Illness Classification (UIAA)						計
	1軽症	2中症	3重症	4重体	5死亡	6即死	
20-24		1	1				2
30-34			1				1
35-39		2	1	2			5
40-44	1		4	1			6
45-49	1	2	3	1			7
50-54	2	4	10	1		1	18
55-59	4	4	12	2			22
60-64	2	7	26	5		1	41
65-69	5	10	20	4			39
70-74	14	12	26	4	1		57
75-79	6	7	8	1			22
80-84	1	1	5			1	8
総計	37	50	117	21	1	3	229

2. 新規登録者の登山目的と事故態様

登山目的は大半の人々が複数目的を持っている(表5)。歩行目的が218、クライミング98、山スキー 18、登山以外の66となっている。

一方、事故態様を表6に表す。各要因の発生割合は数年内においても、あまり変化はない。

非常に多い転倒に注目すると、死亡はなく、重体が11人、大半は重症の71人となっている。動物、昆虫の襲撃項目ではすべて昆虫で、毒虫と蜂の襲撃であった。

表5 登山目的		表6 事故態様	
登山目的	回数	要因	該当数
山歩	143	滑落	45
周走	75	転倒	123
アルパインクライミング	27	墜落	17
アイスクライミング	9	道迷い	4
フリークライミング	29	疲労	11
岩登り	33	発熱	1
山スキー	18	落石	9
懸崖	23	雪崩	0
観光山野	0	落雷	0
観光登山	0	悪天候の急の行動不敏	2
観光紅葉等の観賞	0	有毒ガス	0
山菜採り	10	鉄砲水	0
山菜採り野草	0	いきかい	1
山菜採りきのこ	0	野生動物・昆虫の襲撃	9
溪道釣り	2	不明	1
写真撮影	6	その他	23
山景撮影	3		
野営	1		
キャンピング	8	昆虫	4
仕事	0	蜂	5
仕事森林伐採	0		
仕事下草刈り	0		
仕事調査研究	1		
その他	10		

3. 新規登録者の事故発生クラスター山域

表7に3年間の事故発生山域における変遷を表した。

2019年では、北アルプス、八ヶ岳など典型的な事故多発山域が並び、2020年では、北アルプスが1位を保つが、数を減らした。2021年では2位となり、変わって秩父山系が1位となった。(図19)

このクラスター山域が3年間で変化する背景には、山岳会関係者へのコロナの影響による減少と新たな山域への活動域の分散化にある。

つまり、冒頭のコロナの影響で述べたが、登山者の活動山域がコロナ以前には戻らず、大きく変わってきている。

表7 3年間に見る事故発生山域の変遷

2021	2020	2019
山系、山地、山脈	山系、山地、山脈	山系、山地、山脈
秩父山地 28	北アルプス 21	北アルプス 47
北アルプス 19	秩父山地 20	八ヶ岳連峰 18
奥羽山脈 8	八ヶ岳連峰 14	秩父山地 17
三國山脈 7	六甲山地 11	奥羽山脈 11
丹沢山地 4	三國山脈 8	三國山脈 11
比良山地 4	奥羽山脈 7	独立峰 8
六甲山地 4	石狩山地 5	南アルプス 8
鈴鹿山脈 4	西白山地 4	後立山連峰 5
飯豊山地 3	大山山系 4	御坂山地 5
北山山系 3	大雪山系 4	六甲山地 5
大山山系 3	鈴鹿山脈 4	鈴鹿山脈 5
中央アルプス 3		西白山地 4

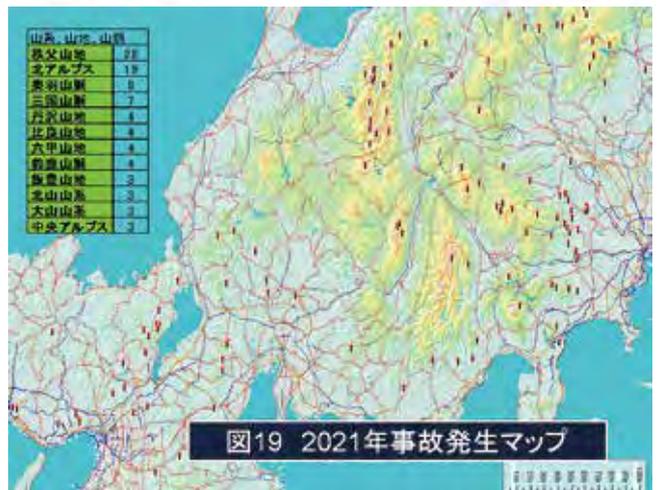


図19 2021年事故発生マップ



8月号より開始! かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ

エベレスト南西壁の8,000mの高所には高差約300mの黒々した垂壁が聳えている。英国人はこれをロック・バンドと呼んだ。この圧倒的なロック・バンドの突破が南西壁攻略のキー・ポイントとなる。このロック・バンドの下には左右にクーロワールが伸びており、右は南稜、左は西稜へそれぞれ延びている。これまでの登山隊も左右どちらかのクーロワールにルートを求めており、正面の絶望的な垂壁は手つかずである。

我々は、1975年の英国隊と同じく左クーロワールにルートを延ばした。ロック・バンドの左端を登攀しながら振り向くとローツェが同じ高さに眺められた。

(写真撮影 尾形好雄)

編集後記

近所の公園は落ち葉で埋まり、晩秋の様相で寒くなってきました。

私が担当しているデジタルプラットフォーム構築の「JMSCA総合登録管理システム」プロジェクトでは、11/11の提出期限までに、4社より提出がありました。

これが完成すると、選手登録もマイページを作り登録してお金の支払いも行え、競技への申し込みもできます。

また、選手登録の有効期限やデジタル登録証も表示します。

今後組織を強化するために有効なデータベースになると思います。

(蛭田伸一)

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第644号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和4年11月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

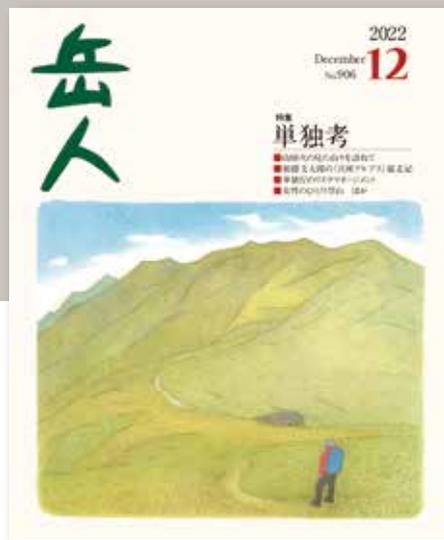
山と人、時代をつなぐ「岳人」

12月号
発売中

【特集】 単独考

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格990円(税込)



年間購読がおすすりめです

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊 年間購読なら12冊 1冊分おトク!

~~10,800円(税込)~~ → **9,900円(税込)**
11,880円(税込) 10,890円(税込)

岳人 U.L. ショルダーバッグ

3色のうち1色をお届け。
※カラーはお選びいただけません。

軽量で丈夫な生地を使用。
登山中のサブバッグに!



限定デザイン

岳人 カード

全国2,000カ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

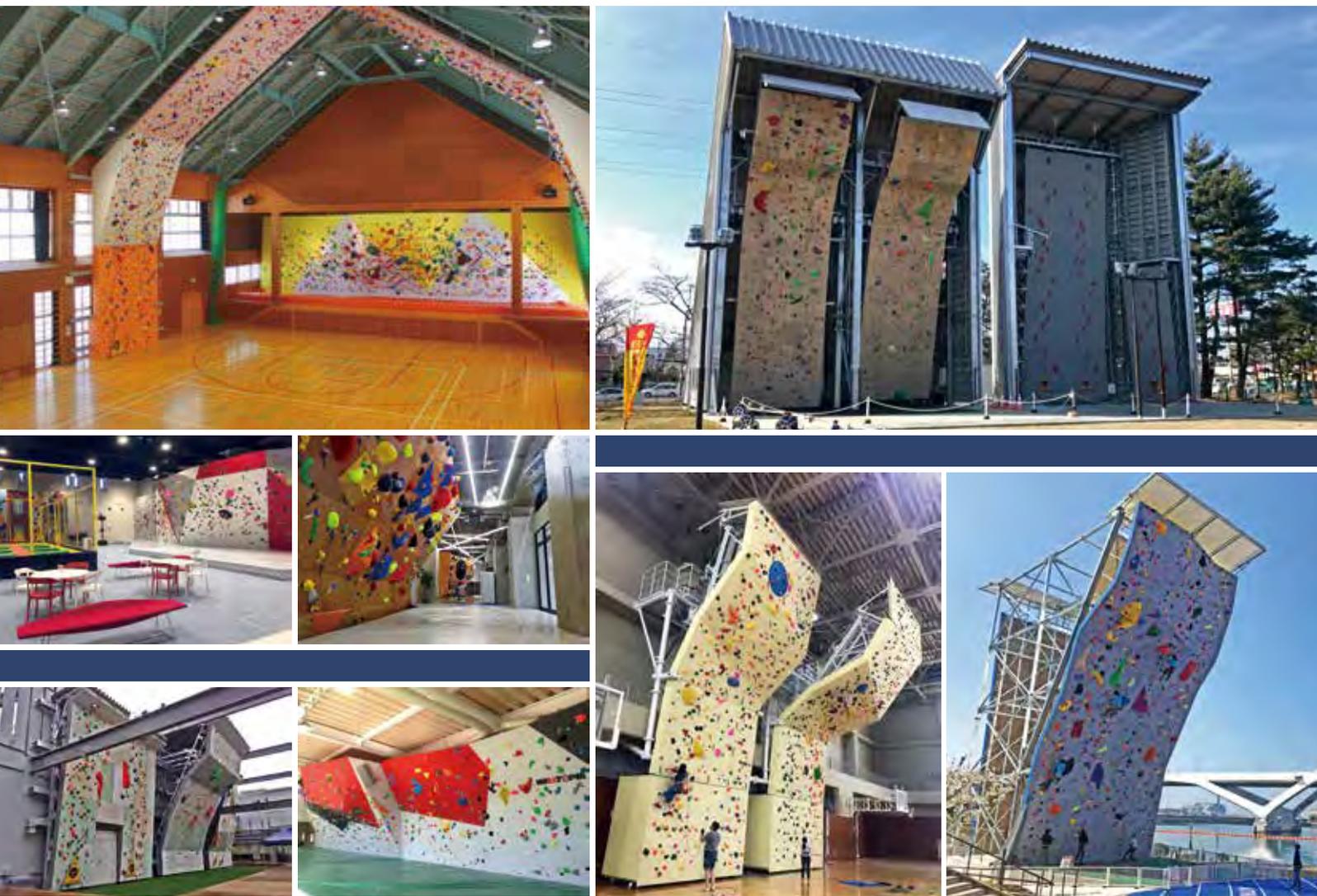
持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます